

全国世帯数の将来推計 (昭和52年1月暫定推計): 昭和45年～75年

伊藤達也・山本千鶴子

人口問題研究所は、昭和52年1月に全国世帯数の将来推計を発表した。前回は昭和50年2月の『日本の将来推計人口』をベースに、推計を行なった¹⁾。その後、全国人口の将来推計が改訂²⁾されたので、世帯数の将来推計を最少限の修正だけで再計算を行なった。この資料は昭和52年1月暫定推計とし、結果表の大部分と推計方法の概要を掲載するものである。

推計の範囲

昭和50年国勢調査1%抽出集計結果の世帯総数を基準世帯数として、昭和60年まで毎年、以降5年おきに75年まで10月1日現在で推計した。なお普通世帯と準世帯の定義は国勢調査に基づいている。

推計の方法

この推計は世帯主率法によっている。これは世帯数、すなわち世帯主の数ということで、ある時点で男女年齢別に世帯主である割合を予測し、その時点での男女年齢別人口との積から、世帯主の数、つまり世帯数を推計する方法である。この方法は、現在のように年齢別の世帯主率は安定しているが、人口の年齢構造が急激に変化していくような状態の下で、その変化をフォローすることができる利点がある。

なお、この世帯数推計に用いた人口は、昭和51年11月推計の『日本の将来推計人口』（研究資料第213号）の中位推計値である。

これまで発表された昭和50年国勢調査結果には男女年齢別の世帯主数がないので、本推計は、次の方法でこれを推計した。昭和50年10月1日現在の総世帯数は、国勢調査では3,226万8千世帯、昭和50年5月推計では3,223万4千世帯と差が3万4千しかないので、昭和50年推計の男女年齢別世帯主数を一率に修正した。なお、国勢調査の総世帯には「不詳」が含まれているので、これを一率に補正した。つぎに、昭和46年推計（研究資料第197号）の世帯主率と昭和50年国勢調査による修正世帯主率とによって、昭和60年までの世帯主率を推定した。この世帯主率と昭和51年11月推計の全国年齢別人口（中間推計値）によって普通世帯数を推計し、これを中間推計値とした。高推計値と低推計値は、前回の推計結果をもとに算出した。

準世帯数は、昭和46年推計の想定と同様に昭和60年に50万とし、昭和50年国勢調査の90万から補間推計をして毎年の値を得た。なお、昭和60年以降は一定とした。

一世帯あたりの平均世帯人員の算出にあたっては、人口推計の3つの推計値を用いた。その理由は3つの推計値の差は、出生率仮定の差によるもので世帯内の子供の数にちがいがでてくるためである。

- 1) 人口問題研究所『わが国世帯数の将来推計—昭和45～75年10月1日現在—昭和50年5月暫定推計』研究資料第210号と『人口問題研究』第135号、51～55ページ。
- 2) 人口問題研究所『日本の将来推計人口—全国男女年齢別、昭和50～125年—昭和51年11月推計』研究資料第213号。その要約は本号に掲載されている。

結果の概要

(1) 世帯数の増加

昭和45年の沖縄県を含む全国の普通世帯は、2,707万世帯、準世帯は102万世帯、総世帯は2,809万世帯であり、昭和50年は、それぞれ3,142万世帯、85万世帯、3,227万世帯である。

昭和30年から10年間ごとに世帯数の増加をみると、総世帯、普通世帯とも昭和30年代、40年代は年平均3%、昭和50年代は2%、60年代は1%となった。

準世帯数の増加は、昭和30年代は約6%、40年代はマイナス2%、50年代はさらに大きくマイナス5%になった。

表1 世帯数と10年間の年平均増加率

(単位 1,000)

年	次	総世帯	普通世帯	準世帯
国 勢 調 査				
昭和30年	(1955)	18,123	17,540	583
40	(1965)	24,290	23,280	1,010
50 ¹⁾	(1975)	32,268	31,384	850
中 間 推 計 値				
60	(1985)	39,420	38,920	500
70	(1995)	43,707	43,207	500
年 平 均 増 加 率 (%)				
昭和30—40年	('55—'65)	2.93	2.83	5.50
40—50	('65—'75)	2.84	3.00	-1.71
50—60	('75—'85)	2.00	2.14	-5.32
60—70	('85—'95)	1.03	1.04	0

注1) 昭和50年国勢調査の1%抽出集計結果。総世帯数には世帯の種類「不詳」を含む。

ところで、昭和50年に総世帯の97%を占める普通世帯については、中間推計値のほか、高推計値と低推計値の2本の推計値を示した。高推計値と低推計値の差は昭和60年で200万、昭和75年で250万世帯であり、中間推計値からの偏差はそれぞれ2.6%と2.8%である。

昭和50年から60年までの10年間に、普通世帯は750万増加して3,892万世帯に、準世帯は想定により、50万世帯に減少すると見込まれている。したがって60年の総世帯は、715万ふえて3,942万となる。

25年後の昭和75年には、普通世帯は昭和60年よりも584万ふえて4,476万世帯となる。準世帯を昭和60年以降一定と仮定したために、普通世帯の増加はそのまま総世帯の増加となり、昭和50年より40%増加して4,526万世帯となる。

(2) 世帯規模の推移

戦前から昭和30年までの世帯規模は、総世帯も普通世帯も5人前後と大きな変化はみられなかった。しかし、昭和25年以降の出生数の減少は世帯内の子供の数をへらし、若年人口の大都市集中は世帯分離を急速におし進めた。その結果、昭和50年には、総世帯一世帯あたり3.47人となり、昭和30年に比べて1.50人縮小した。

今後も人口増加が年率1%から0.6%へとしだいに低下していくが、世帯数は3~1%の増加を示しているため、平均世帯人員は減少していくものとみられる。その減少がどこで安定するかは、世帯

表2 わが国世帯数の推移, 昭和45~75年(各年10月1日現在)

(単位 1,000)

年次	総世帯	普通世帯	準世帯	前回推計(中間)							
				総世帯	普通世帯	準世帯					
国勢調査(C) 補間推計(E)											
昭和 45	1970C	28,093	27,071	1,022	28,093	27,071	1,022				
46	1971E	28,762	27,774	988	28,952	27,973	979				
47	1972E	29,568	28,614	954	29,776	28,840	936				
48	1973E	30,379	29,460	920	30,613	29,719	894				
49	1974E	31,180	30,295	885	31,402	30,549	853				
50	1975C	32,268	31,417 ¹⁾	851 ¹⁾	32,234	31,426	808				
将来推計											
		(高)	(中間)	(低)	(高)	(中間)	(低)				
51	1976	33,866	33,056	32,247	33,060	32,250	31,441	806	32,943	32,175	768
52	1977	34,713	33,854	32,996	33,951	33,093	32,235	761	33,694	32,967	727
53	1978	35,558	34,656	33,733	34,842	33,930	33,017	716	34,429	33,743	686
54	1979	36,523	35,489	34,454	35,852	34,818	33,783	671	35,204	34,559	645
55	1980	37,368	36,292	35,218	36,743	35,667	34,592	626	35,930	35,326	604
56	1981	38,214	37,086	35,959	37,613	36,486	35,359	601	36,666	36,083	583
57	1982	38,871	37,745	36,619	38,296	37,170	36,044	576	37,295	36,732	563
58	1983	39,455	38,350	37,246	38,905	37,800	36,695	550	37,886	37,344	542
59	1984	39,977	38,916	37,855	39,452	38,391	37,330	525	38,427	37,906	521
60	1985	40,441	39,420	38,400	39,941	38,920	37,900	500	38,936	38,436	500
65	1990	42,812	41,674	40,535	42,311	41,173	40,035	500	41,167	40,667	500
70	1995	44,902	43,707	42,513	44,401	43,207	42,013	500	43,290	42,790	500
75	2000	46,502	45,264	44,027	46,001	44,764	43,527	500	45,069	44,569	500

注 1) 国勢調査の1%抽出集計結果の世帯の種類「不詳」を補正したもの。したがって表1の数字とは異なる。

推計の1つの興味ある結果であるが、この推計では、前回と同様ほぼ3人の水準で安定するものとみられる。

(3) 世帯主の男女年齢5歳階級別普通世帯数

普通世帯数を男子が世帯主の世帯と女子が世帯主の世帯とに分けてみると、男子の場合、昭和50年2,705万(構成比86.1%)、昭和60年3,319万(85.3%)、昭和75年3,794万(84.8%)と実数で増加している。世帯主が女子の世帯は、昭和50年437万(構成比13.9%)、昭和60年573万(14.7%)、昭和75年682万(15.2%)と、実数および構成比の両方で増加している。

次に年齢別にみると、昭和50年と60年を比較すると男女とも25~29歳の世帯主の世帯が減少しており、それ以外の年齢では増加している。その中で一番大きい増加率を示しているのは、実数では小さいが、世帯主が80歳以上の世帯である。それらは、昭和50年と比較して2倍近い伸び率を示している。次に大きい増加率を示しているのは75~79歳の世帯主の世帯である。昭和75年では男女とも50歳以上の世帯主の世帯は2倍近く、あるいはそれ以上の増加を示している。

以上のような中高年齢層が世帯主の世帯の増加する原因は何であろうか。それは次のように考えられる。世帯主の年齢別世帯数は、世帯主率と年齢別人口とによって得られる。そこで昭和50年と60年の年齢別世帯主率を比較すると、女の40～44歳の年齢以外は昭和60年の世帯主率の方が若干高くなっている。これは世帯の形成が都市化—いいかえると世帯分離を想定しているためである。

一方、年齢別人口を昭和45年と60年で比較してみると、昭和60年において中高年齢層の人口増加は著しい。したがって、世帯主の中高年齢化は人口の側に主たる要因があるといえる。いいかえると、人口の老齢化とともに世帯主の中高年齢化、老人世帯の増加は著しいものと見込まれる。

表3 総世帯の世帯人員および平均世帯人員，昭和45～75年

年次	総世帯人員 ('000)	平均世帯人員	前回推計				
国勢調査(C)と補間推計(E)							
昭和 45年 1970C	104,665	3.73	3.73				
46 1971E	105,968 ¹⁾	3.68	3.66				
47 1972E	107,332 ¹⁾	3.63	3.60				
48 1973E	108,710 ¹⁾	3.58	3.55				
49 1974E	110,049 ¹⁾	3.53	3.51				
50 1975C	111,934	3.47	3.46				
推計 ²⁾							
	(高)	(中間)	(低)	(高) ³⁾	(中間) ⁴⁾	(低) ⁵⁾	
51 1976	113,063	113,063	113,063	3.51	3.42	3.34	3.43
52 1977	114,148	114,148	114,148	3.46	3.37	3.29	3.39
53 1978	115,276	115,276	115,276	3.42	3.33	3.24	3.36
54 1979	116,432	116,432	116,393	3.38	3.28	3.19	3.32
55 1980	117,600	117,563	117,453	3.34	3.24	3.14	3.28
56 1981	118,715	118,629	118,446	3.30	3.20	3.10	3.25
57 1982	119,764	119,628	119,379	3.27	3.17	3.07	3.22
58 1983	120,756	120,571	120,264	3.24	3.14	3.05	3.20
59 1984	121,701	121,469	121,110	3.21	3.12	3.03	3.18
60 1985	122,611	122,333	121,927	3.19	3.10	3.01	3.17
65 1990	126,770	126,280	125,667	3.13	3.03	2.94	3.10
70 1995	130,770	130,065	129,239	3.08	2.98	2.88	3.04
75 2000	134,610	133,676	132,615	3.06	2.95	2.85	3.00

注 すべての年次に沖縄を含む。

1) 総理府統計局『推計人口』（昭和49年10月1日現在）人口推計資料 No. 47 P. 20 より。

2) 人口問題研究所『日本の将来推計人口』（昭和51年11月推計）研究資料第213号 P. 14 より。

$$3) \text{ 総世帯の平均世帯人員(高)} = \frac{\text{総人口(高)}}{\text{総世帯数(低)}}$$

$$4) \text{ 総世帯の平均世帯人員(中間)} = \frac{\text{総人口(中間)}}{\text{総世帯数(中間)}}$$

$$5) \text{ 総世帯の平均世帯人員(低)} = \frac{\text{総人口(低)}}{\text{総世帯数(高)}}$$

表4 世帯主の男女年齢5歳階級別普通世帯数, 昭和50~75年(中間推計値)

(単位 1,000)

	昭和50(1975)年			昭和51(1976)年			昭和52(1977)年		
	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女F.
総数	31,417	27,049	4,368	32,250	27,743	4,507	33,093	28,446	4,647
15-19	260	153	107	274	159	116	290	165	125
20-24	1,397	999	398	1,382	981	401	1,367	963	404
25-29	3,114	2,866	248	3,317	3,051	266	3,243	2,981	262
30-34	3,689	3,473	216	3,544	3,337	206	3,736	3,519	216
35-39	3,782	3,510	272	3,890	3,612	279	3,982	3,695	287
40-44	4,042	3,669	373	4,127	3,748	379	4,171	3,791	381
45-49	3,930	3,401	529	4,062	3,511	551	4,231	3,646	585
50-54	3,150	2,526	624	3,422	2,766	656	3,653	2,976	677
55-59	2,515	2,002	513	2,535	2,010	526	2,595	2,050	545
60-64	2,181	1,774	407	2,221	1,806	414	2,232	1,812	421
65-69	1,612	1,319	293	1,681	1,370	311	1,706	1,385	321
70-74	997	793	204	1,000	792	207	1,042	826	216
75-79	502	386	116	535	412	124	566	435	131
80+	246	178	68	262	190	72	279	203	76

	昭和53(1978)年			昭和54(1979)年			昭和55(1980)年		
	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女T.	男女計T.	男M.	女F.
総数	33,930	29,154	4,776	34,818	29,828	4,990	35,667	30,578	5,089
15-19	309	173	136	326	180	146	351	191	159
20-24	1,381	967	414	1,387	982	405	1,441	993	448
25-29	3,082	2,831	251	2,789	2,553	236	2,777	2,551	227
30-34	4,016	3,787	229	4,267	4,024	243	4,563	4,303	260
35-39	4,084	3,788	296	4,311	4,000	311	4,266	3,959	307
40-44	4,184	3,806	378	4,146	3,773	373	4,185	3,813	372
45-49	4,328	3,734	594	4,520	3,821	699	4,551	3,874	677
50-54	3,894	3,192	702	4,097	3,369	728	4,234	3,488	746
55-59	2,699	2,130	569	2,906	2,306	599	3,081	2,466	615
60-64	2,227	1,804	423	2,192	1,774	418	2,249	1,814	435
65-69	1,750	1,419	332	1,811	1,455	356	1,818	1,465	352
70-74	1,077	850	226	1,126	887	239	1,182	930	252
75-79	600	456	144	622	472	150	630	483	147
80+	298	217	81	318	232	86	340	248	92

表4 つづき

(単位 1,000)

	昭和56(1981)年			昭和57(1982)年			昭和58(1983)年		
	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女F.
総数	36,486	31,177	5,308	37,170	31,719	5,450	37,800	32,232	5,568
15—19	359	194	165	389	207	182	413	218	195
20—24	1,482	1,014	468	1,529	1,038	491	1,587	1,070	518
25—29	2,690	2,471	218	2,607	2,395	211	2,583	2,375	208
30—34	4,824	4,548	277	4,682	4,413	269	4,414	4,158	256
35—39	4,079	3,786	293	4,284	3,977	307	4,579	4,255	324
40—44	4,292	3,913	379	4,380	3,992	388	4,473	4,076	397
45—49	4,732	3,948	784	4,770	3,978	792	4,746	3,975	771
50—54	4,347	3,584	763	4,490	3,706	784	4,577	3,773	804
55—59	3,326	2,686	641	3,537	2,880	657	3,753	3,076	676
60—64	2,269	1,822	447	2,323	1,859	464	2,414	1,928	485
65—69	1,849	1,489	361	1,858	1,491	367	1,852	1,481	371
70—74	1,236	968	268	1,259	982	277	1,294	1,009	286
75—79	635	486	149	669	512	156	696	532	164
80+	367	268	99	394	288	106	420	308	113

	昭和59(1984)年			昭和60(1985)年			昭和65(1990)年		
	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女F.
総数	38,391	32,752	5,639	38,920	33,192	5,729	41,173	34,993	6,181
15—19	439	230	209	462	240	222	512	266	247
20—24	1,638	1,098	540	1,721	1,145	576	1,864	1,242	622
25—29	2,585	2,376	210	2,582	2,372	209	2,698	2,480	218
30—34	4,115	3,877	238	3,905	3,679	226	3,432	3,238	194
35—39	4,827	4,484	344	5,138	4,772	367	4,260	3,952	308
40—44	4,687	4,274	413	4,618	4,214	405	5,453	4,985	468
45—49	4,612	3,906	706	4,587	3,928	659	5,015	4,292	723
50—54	4,668	3,852	816	4,684	3,849	835	4,746	3,891	856
55—59	3,914	3,221	694	4,032	3,325	707	4,458	3,683	775
60—64	2,591	2,079	512	2,746	2,220	526	3,600	2,995	605
65—69	1,812	1,445	368	1,859	1,475	384	2,280	1,819	461
70—74	1,327	1,030	297	1,347	1,043	304	1,378	1,054	324
75—79	732	558	174	773	589	184	878	659	218
80+	444	324	119	467	341	126	600	437	163

表4 つづき

(単位 1,000)

	昭和70(1995)年			昭和75(2000)年		
	男女計T.	男M.	女F.	男女計T.	男M.	女F.
総数	43,207	36,608	6,600	44,764	37,941	6,823
15—19	481	250	230	451	235	216
20—24	2,067	1,375	692	1,940	1,295	646
25—29	2,925	2,689	236	3,239	2,977	262
30—34	3,587	3,385	202	3,888	3,670	218
35—39	3,741	3,478	263	3,910	3,636	275
40—44	4,520	4,128	392	3,969	3,634	336
45—49	5,917	5,080	837	4,906	4,205	701
50—54	5,190	4,251	939	6,120	5,033	1,087
55—59	4,516	3,722	794	4,939	4,068	871
60—64	3,980	3,317	663	4,031	3,352	679
65—69	2,981	2,451	530	3,294	2,713	581
70—74	1,693	1,304	389	2,200	1,753	447
75—79	899	666	233	1,107	827	280
80+	712	512	200	769	545	224

表5 総世帯数の比較
中間推計値

(単位 1,000)

年次	昭52推計 ①	昭50推計 ②	差 ①—② ③
昭和45 1970	28,093	28,093	0
50 1975	32,268	32,234	34
55 1980	36,292	35,930	362
60 1985	39,420	38,936	484
65 1990	41,674	41,167	507
70 1995	43,707	43,290	417
75 2000	45,264	45,069	195

表6 世帯主の年齢5歳階級別普通世帯数の比較
(昭和55年)

(単位 1,000)

年齢	昭52推計 (1)	昭50推計 (2)	昭46推計 (3)	差 (1)—(2)	差 (1)—(3)
総数	35,667	35,326	35,230	341	437
15—19	351	349	331	2	20
20—24	1,441	1,446	1,413	-5	28
25—29	2,777	2,825	2,825	-48	-48
30—34	4,563	4,448	4,521	115	42
35—39	4,266	4,165	4,095	101	171
40—44	4,185	4,149	4,087	36	98
45—49	4,551	4,518	4,465	33	86
50—54	4,234	4,174	4,208	60	26
55—59	3,081	3,061	3,042	20	39
60—64	2,249	2,254	2,225	-5	24
65—69	1,818	1,795	1,820	23	-2
70—74	1,182	1,164	1,189	18	-7
75—79	630	631	655	-1	-25
80+	340	347	356	-7	-16

Projections of the Number of Households for Japan, 1970-2000 Projected in January 1977

Tatsuya ITOH and Chizuko YAMAMOTO

This report gives figures for one series of estimation during 1971-1974 and three series of projections to 2000 of the number of households and average household size in the Japan. The results and technical notes are given bellow.

1. Increase in Households

One series of estimations and three series of projections of the number of households are shown in *table 2*. These differ in their assumptions as to the headship rates in each age groups.

The total number of households in Japan has increased very rapidly in the last few decades, from 18 million in 1955 to 32 million in 1975 as shown *table 1*. According to the medium series of projection, the total number of households will grow to 39.4 million by 1985, representing an increase of 7.2 million over the 32.3 million at the 1975 Population Census, and to 45.3 million by 2000.

At the same time, the number of *ordinary households* that constituted 97 percent of the total number of households in 1975, has rapidly increased four-fifths of the number of households in 1955. The number of *ordinary households* will continue to increase but the annual rate of growth tends to decline from 2.1 percent during 1975-1985 to 1.0 percent during 1985-1995 as shown *table 1*. This is affected by a results of past decline in the number of births starting in the 1950's.

The growth in the number of households by age of heads can be attributed to the increase of population by age and to the rise of proportion of households heads. General speaking, main cause of households increase in the period 1955-2000 is population growth. About three-fourths of total household increase in the period 1955-1970 is due to increase of adult population, and 17 percent of total increase in the same period is due to rise of headship rate.

2. Future Trends of average households size

The average household size was around 5 persons in the pre-war period and 4.97 in both 1950 and 1955. These number has decline very rapidly from 4.54 in 1960 and reached to 3.47 in 1975. Such decline is affected by the decline in the number of children per a household due to decline in the birth rate, and by the increase in the number of young persons who leave their parental home to set up their own households. According to the medium projection, the average household size will be 3.17 in 1985 and 3.00 in 2000.

3. Technical Notes

This household projection was made by the headship rate method. These number were based on extrapolations of the changes in the marital status and the proportion of heads of households, by age, sex and marital status and on recently projected population growth.